

京都建築事務所

想いをカタチに、想い以上の感動を



私たちは、医療福祉施設を中心に設計を行っています。クライアントの想いを叶え、それが社会貢献につながる設計を目指しています。

医療福祉施設の新築、増築、改修等、お気軽にお問合せください。

株式会社 京都建築事務所
代表取締役社長 細見 建司

〒604-8083 京都市中京区三条通柳馬場東入中之町 10 番地

TEL:075-211-7277 FAX:075-211-7270

<http://www.kyoto-archi.co.jp/>



2022 年度総合社会福祉研究会員のつどいは オンライン（ZOOM）にて開催いたします

日頃より総合社会福祉研究所の諸活動にご協力たまわり、感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染拡大のため、今年度の会員のつどいは、オンライン（ZOOM）にて開催いたします。

会員のみなさまには、8月初旬に事業報告および会員のつどいの案内文を届けいたします。ご参加いただける方は、総合社会福祉研究所のホームページより、お申し込みをお願い致します。

2022 年度会員のつどい：2022 年 8 月 27 日（土）

10 時～11 時 45 分

つどい後 13 時より開催される研究交流集会にも、ぜひご参加ください！

夢をかたちに

城東福祉ゾーン

新たなるスタート

社会福祉法人大阪福祉事業財団

法人
福祉事業財団

- ① すみれ病院
- ② 城東養護老人ホーム
- ③ すみれ高齢者福祉センター
- ④ ホームヘルプセンター（福祉サービス）
- ⑤ すみれ保育園
- ⑥ 福祉課
- ⑦ はかよしすみれ保育園
- ⑧ 福祉課内務部（福祉サービス）



大阪福祉事業財団は、8月で創立74年を迎えました。大阪市城東区には複数の施設があり、2012年財団プランの柱として“城東福祉ゾーン構想”が提起され、複合施設の建替え計画が開始しました。なかよしすみれ保育園、すみれ乳児院移転改築、城東特別養護老人ホーム、城東養護老人ホーム、すみれ保育園、すみれ病院の新築工事を順次進めてきました。構想から10年間の建設工事期間を経て、城東福祉ゾーンが新たに出発しました。みなさまから多大なるご支援・ご協力をいただき、夢をかたちにできたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。地域のみなさまに寄り添い、いつでも頼りになる福祉拠点になるようとりくんでいきます。



建替えのたびにお引越「お地蔵さん」

城東老人ホームの建て替えにともない、お地蔵さん（ほくら）の祠も新しくなりました。老人ホーム前の広場が完成するまでの期間は、新しくなった老人ホームのフロアに仮安置をして完成を楽しみにしていました。養護老人ホームの入居者のみなさんが、定期的にお世話をされています。地域のみなさんからお賽銭やお菓子などのお供えをしていただくことも多く、これからも地域の守り神として親しまれることと思います。



すみれ保育園は来年、創立70周年を迎えます

「10円保育」からはじまったすみれ保育園。地域の保育を支えてきた旧園舎とお別れをして新しく建て替わりました。子どもたちが安心して生活し、育ちの中でたくさん自然と触れてほしいという想いをこめて、楽しくワクワクする造りがたくさんの園舎になりました。ホールやピロティ、園庭は地域の子育て支援のとりくみでも親しまれています。となりに芝生の広場ができたことで、地域や周辺施設と連携し、より開かれた保育園のとりくみを進めていきます。



笑顔あふれる、ゆたかなまちづくりをめざして

すみれ病院と城東老人ホームが隣接して建てられ、車いすでの通院もスムーズになりました。緊急時も病院との連携がすぐにできることは、安心につながっています。広々とした広場は、保育園の遊び場として、また老人ホームの入居者さんの憩いの広場として完成しました。今後は地蔵盆や福祉まつりなどのイベントが予定されており、コロナ禍で行事やイベントがとりくめない状況から、「希望の灯りがともる広場」として期待が高まっています。新しくなった城東福祉ゾーンでたくさんの人たちが集い、笑顔があふれるゆたかな暮らしと人権尊重の福祉実践を進めていきたいと思います。(写真・大阪福祉事業財団、文・城東鶴見ブロック 遠藤佳代子)



●特集● 平和と福祉 私たちができること

非戦を世界に広めていくことこそ、日本ができる一番の国際貢献

志葉 玲 10

人類にとっての“対話”の大切さをより強く感じて

木戸季市 16

ウクライナという国を守りたい

シガル・オレーナ 20

原子力と平和

市川 浩 24

——核大国ロシアの原発大国ウクライナへの侵攻を機に考える

●トピックス●

【PHOTO】 おおさかパルコープ子ども食堂フードバンク 30

命と安全を守るための公的責任を 家平 悟 32

【座談会】 ろうあ者の生活はどう変わったか。思いと運動を次の世代へ。 36

第27回社会福祉研究交流集会 in 愛知のご案内 40

●連載●

WORK WORK——わくワク——

「和の手作りゼリー」は夏の主役！ はぐるま共同作業所和の杜 44

ミリタナが実現するフランスの福祉（最終回）

国の未来をつくる国民を育てるために

安發 明子 46

かさねあい、はぐくみあう保育実践（最終回）

新しい「柱」になっていく保育士さんに

上西 克明 48

★新連載★ケア労働処遇改善キャンペーン！

石倉 康次 50

夕映えのとき～人生の終え方を支える実践～

吉川 由加 52

コロナ禍であらためて大切にしたい、思いに寄り添うということ

★新連載★座ることを考える

（1）椅子に座るということ

増澤 高志 56

J O B & A C T I O N 全国福祉保育労働組合（17）

安心して働きつづけられる職場へ

60

私の履歴書 社会福祉経営全国会議（17）

収入保障で支えたい障害者の発達とくらし

亀井 勝 62

阿修羅がゆく わたしが好きな釜ヶ崎（37）

水野阿修羅 64

相談室の窓から

青木 道忠 66

それぞれの個性や特性が尊重され安心してヘルプが出せる社会に①

育つ風景

清水 玲子 68

保育園職場のあり方としての職員関係を問う

映画案内 『ペンタゴン・ペーパーズ／最高機密文書』

吉村 英夫 70

現代の貧困を訪ねて

なぜ女性の野宿者は少ないのだろうか

生田 武志 72

似らすとれーしょん道場 似顔絵まんがアート

クビなのじゃ！

ラッキー植松 74

ホームレスから日本を見れば

ありむら潜 76

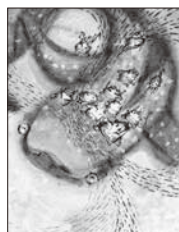
花咲け！ 男やもめ

川口モトコ 77

みんなのポスト 42／福祉の動き 78／今月の本棚 81

●グラビア● 夢をかたちに 城東福祉ゾーン新たなスタート

●表紙の絵●
神門やす子



商社マンから 笑社マンへ

～お笑いで社会的課題にとりくむ～

漫才コンビ「フランポネ」 マヌー 島岡

お笑い芸人でも社会に貢献できる！ ことを模索しながら、私たちは「漫才で覚える日本語」という授業をはじめました。日本語以外にも「漫才で覚える英語・フランス語・スペイン語」を考案したり、昨年からは「漫才で覚えるSDGs」という授業も開始し、日本全国の大学・専門学校、小・中・高等学校で実施しています。漫才をベースにした講座は教育的にも効果があると言われています。

外国人が言い間違えてしまった日本語をそのまま漫才にします。たとえばボケ↓「彼は私の鬼です」、ツツコミ↓「それ鬼じゃなくて兄でしょ」のような、よくある言い間違えを一件（くだり）の漫才にすることができます。間違えた日本語をボケにして、どのような間違えが起きたのかをツツコミで説明すると、外国人でもかたんに即興で漫才を作成することができるようのです。

あるとき、「漫才で覚える日本語」の授業を見ていた関係者から、「こんなにかんたんに漫才ができるのであれば、障害者施設でもできるのでは？」との提案がありました。そこで、二〇二一年五月からCSR（企業の社会的責任）と障害者雇用に関する研究者の影山摩子^{まこや}さんの授業で取り上げてもらい、障害者施設での漫才作成講座を実施してみました。みなさん、まったく問題なくすてきな漫才を作成！ そこで、今年の四月から



まぬー しまおか (写真左)

2002年9月から2012年までベルギーにある日系企業で勤務。2012年に帰国し商社で勤務。その後、商社マンから笑社マンをめざし2018年に吉本興業が運営する芸人養成所 NSCに入所。2019年に国際夫婦漫才コンビ「フランボネ」としてデビュー、日本で唯一、フランス語で漫才ができるコンビとして知られる。一方で外国人向けに「漫才で覚える日本語」という授業方法を考案し、現在は日本だけではなく世界中にある日本語教育機関で講座を実施中。

本格的に学生と一緒に施設で漫才作成講座をおこない、秋には障害者施設で障害者による漫才大会を実施することになりました。こうしたとりくみは、障害者がいろんな才能をもっているということを知ってもらうためにも非常に大きな意義があるなと感じています。また、作成した漫才動画をYouTubeなどで公開したり、企業の人事採用者に見てもらえれば、障害者の就業機会を拡大させることも可能ではないかなと思います。

ビジネスを通して社会問題にとりくむことを、一般的に「ソーシャルビジネス」と言います。さらに得た利益を必要な人に回すことを、「マイクロファイナンス」と言いますが、私たちの活動は、マイクロファイナンスのようなビジネスを展開しています。昨年横浜で開催した漫才大会は、自治体や企業から約五万円を集めました。今年度はさらに二〇万円を集めて一〇月三一日に実施する予定ですが、優勝したコンビには三万円程度の賞金、参加した障害者には少額のお金が支払われるしくみです。漫才作成がむずかしい方には、会場での除菌作業をしてもらい、法定最低時給（東京の場合一〇四〇円）を支払います。また、運営に関わった障害者にも賃金を支払います。

これまで横浜市と天理市で障害者による漫才大会を実施しましたが、将来的には日本全国に普及し、地区大会、県大会、全国大会のような規模で実施したいと考えています。

平和と福祉 私たちができること

二月二十四日にはじまったロシアのウクライナ侵攻は、四か月以上たった七月五日現在もつづいています。六月一日には、ウクライナのアレストビッチ大統領府長官顧問が、ウクライナ兵の死者が一人ほどに達したとみられることを明らかにし、前日の九日には政府高官が「前線で毎日一〇〇〜二〇〇人のウクライナ兵が死亡している」と発言しています。ロシアはロシア兵の死者数を更新していかないものの、イギリスの国防省は五月下旬、侵攻開始から三か月間でロシア兵の死者数は一万五〇〇〇人規模にのぼっているとの分析を発表しています（『日本経済新聞』六月二二日）。報道されているのは兵士の死者数なので、民間人の死者数もふくめると、さらにたくさんなの、なんの罪もない人たちが戦争のせいで命を奪われているということです。

日本では、東日本大震災によって一万五九〇〇人の方が亡くなっています。今年の六月一日〜二日まで、二年ぶりに陸前高田学校を開催することができました。現地では、さまざまな場所でウクライナ国旗が掲げられていました。人の命が奪われ、まちが破壊されるということがどれほどの悲しみを広げ、生活や人生、家族にどれほどの影響をおよぼすのか、壮絶な経験をした被災地の人々は、戦争の痛みや不条理に命が奪われる悲惨さを、より強く感じておられるのではないだろうかと思いま

した。

『福祉のひろば』八月号では毎年、「平和と福祉」を特集のテーマとしています。ウクライナの戦争に小誌としてどう向き合うべきだろうかと悩みながらの企画でした。というのも、特集にご登場いただいた木戸季市^{きど すえいち}さん（被団協事務局長）がお話くださったように、ロシアのあまりに非道で一方的な侵略のなかで、自国を守るためには武力も一定は仕方がないのだろうか？ もちろん武力による侵攻は許さないけれど、武力を批判するだけでは、ウクライナに敗北を認めるべきだということにはならないのだろうか？ というモヤモヤとした思いが、私たちのなかにもあったからだと思います。

ですが、特集にご登壇いただいたみなさんのお話を聞くなかで、やっぱり、武力を行使しないでいい世界、武力の行使を許さない世界をどこまでも求めつけ、それを実現するために、対話や議論を重ねるなかで、同じ思いをもつ人たちを一人ずつ世界に増やしていくしかないとの思いを、あらためて強くなりました。

木戸さんは、福祉の仕事にも共通する「対話」の大切さを語ってくださいました。ウクライナから来日したシガル・オレーナさんは、「表現の自由」の大切さを語ってくださいました。今号が最終回となる連載「ミリタンが実現するフランスの福祉」には、ソーシャルワーカーこそが率先して表現の自由を守り、声をあげていくことが大切だとあります。福祉の現場で日々大切にしている、相手の思いを尊重すること、共感し対話を重ねること、権利や自由を守ることが、平和を築く大切な一歩になっていることを、あらためて感じました。

（編集主任）